

【#12】 松田崇弥さん 原稿

0000	高橋 さあ始まりました！トゥルーカラースチャンネル 本日のナビゲーターはJOYさんです！
0005	JOY はいJOYです！ よろしくお願いします。
0006	高橋 よろしくお願いします。 JOYさんが、今会ってお話をしたい トゥルーカラースゲストはどんな方なんですか？
0015	JOY あのですね、福祉という言葉をみんな知っていると思うんですけども、 今回はその福祉という言葉の先にある事業をされている 今注目すべきチャレンジャー、こちらの方にお会いしたいなと思っております。
0029	高橋 それでは、ご紹介しましょう。こちらの方です！
0032	松田 こんにちは！ よろしくお願いします、よろしくお願いします。 失礼します。
0037	高橋 福祉実験ユニット ヘラルボニーCEOの松田崇弥さんです。 よろしくお願いします。
0042	松田 よろしくお願いします。
0043	JOY お願いします、松田さん今日は。

0047	ナレーション 本日のトゥルーカラースゲスト 松田崇弥
0053	株式会社ヘラルボニー代表を務める31歳
0059	2018年、双子の兄・文登とともに起業し
0105	障害者によるアート作品の著作権管理
0109	それらを元にした製品の製作・販売や
0114	企業・自治体向けのライセンス事業などを行っている
0120	松田のこの取り組みの原点には
0123	自閉症で重度の知的障害のある4歳上の兄・翔太の存在があった
0132	JOY 松田さんが、双子のお兄さんと一緒に 今の会社を立ち上げるに至った背景には 障害のあるお兄さんの存在があったということですが、 そのお兄さんについて教えていただいてもいいですか？
0144	松田 そうですね。兄が自閉症で重度の知的障害があるんですけど、 何か日常生活の中で結構強烈なこだわりっていうのがすごくあって。
0154	JOY 強烈なこだわり？
0155	松田 そうなんですよ。 例えば、夜にお風呂に入る時も、 兄貴は11時45分にお風呂の針になったら 上がるっていうのを決まっていたりするんですけど
0205	JOY 上がる時間ですか？

0206	松田 そうなんです。上がる時間とかも決まっていたりして、 でも時計が一回壊れてた時は、 朝までお風呂に居続けたことも
0212	JOY 針が止まっちゃっているから、ずっと例えば11時40分だったら、 45分にならねえなーって、そのまま朝まで？
0218	松田 朝起きたら兄貴普通に風呂場いて。
0221	JOY え！
0222	松田 すごいことになってるなっていうのは昔ありましたね。
0224	JOY なるほど。でも自分の中ではちゃんとルールがあるから。
0226	松田 そうなんです。
0227	JOY 柔軟に対応していくのが難しいっていうことだったりするんですね。
0231	松田 あと例えば何か独特な言葉遊びみたいなのもあって
0235	高橋 言葉遊び？
0236	JOY 独特な？
0237	松田 例えば「さんね」って言葉とかが何か強烈に兄貴は好きで。

0241	JOY 「さんね」？
0242	松田 何でか僕も分かんないんですけど、 「さんね」って言葉に凄い強烈に執着してまして。
0247	JOY 別に意味のある言葉ではなく、自分的にこの響きが好きとか。
0252	松田 好きみたいで。 「崇弥、さんね！」とかって言われて、 僕も「さんね！」って返すと腹抱えるぐらい笑う。
0258	JOY アンサーも「さんね」で良いんですね。
0259	松田 アンサーも「さんね」で良いんですけど
0301	JOY へー！そうかそうか。
0303	松田 そこに面白さを覚える面白さ みたいなもすごく感じるんですけど。
0307	JOY でも家族もちゃんとそういうところに乗かってってあげると 本人も楽しんでくれるから
0311	松田 まあそうですね、確かに確かに。
0312	JOY そういう風に対応していくってことなんですね。
0315	松田 あと、やっぱりちょっと変わってるってところあって

	<p>一気に飲みするってなったら、一気に飲みしたら必ずグラスを床まで付けて、グラスを真ん中まで持っていかなきゃいけないとか、いっぱいこだわりがあるんですよ。</p>
0325	<p>JOY へー！</p>
0327	<p>松田 あと例えば門をくぐる前も 10 秒ぐらい静止してからバッって入るとかめっちゃこだわり多くて。</p>
0334	<p>JOY 自分のルールがね、いっぱいあると。</p>
0335	<p>松田 ルールがすごいんですよ。 なので、なんかやっぱりそういう意味ではたから見ると「なんでこんなことになってるんだろうな」っていうのは確かにある</p>
0344	<p>ナレーション そんな兄に関して、松田には今も後ろめたさを感じてしまうことが…</p>
0353	<p>兄のことを周りに隠した中学時代</p>
0358	<p>松田 小学校の時は 1 学年 25 人ぐらいのすごい小さい学校だったので、本当に兄貴も仲良くみんなでゲームするみたいな感じだったんですけど、やっぱり中学校みたいなところになってくると、生徒数も一気にガンって増えて、環境ががらっと変わって、身体障害のある人のことを、シンショウみたいに言って揶揄したりとかバカにする風潮みたいなのも出てきたりして自閉症スペクトラムっていうのを正式名称なんですけど、それがスペという風に揶揄して、誰かが何か悪い点取ったりすると、「スペの教室行った方がいいんじゃないの？」とか、何か変な動きすると、「スペみたいなことすんなよ」みたいなのがあったりするような風潮みたいなのがあったのはありましたね、確かに。</p>

0443	JOY 子供の時ってね、誰かがそう言うと真似したりして、
0446	松田 そうですね
0447	JOY ていう連鎖が生まれちゃいますからね。
0449	松田 何かすごく嫌だった反面、 それもあって、自分も兄貴のことを中学校は言えなくなるっていうのは、 学校内ではあって。 家だとすごく仲良いけれども、一歩外に出ると馬鹿にされたくないし、 ターゲットになりたくないなっていうのがすごくあって、 本当にショッピングセンターとかでも兄と離れて歩くようにしたりとか、 そういうのはすごい当時はあって
0513	JOY どっちかという、周りの友達に合わせちゃうような。
0515	松田 そうですね。迎合することによって、 自分を守ろうみたいな感じは当時あったと思いますね、 今思えば。 自分の中では当時のそういう… 兄のことを遠ざけてしまったものに対する 自分の気持ち悪さみたいなようなものを 変えていきたいなというところもあって 会社をやってるようなところもあるんですけどね
0537	ナレーション 一方で周りの大人達からの言葉に違和感を覚えることもあったという
0547	親戚のおじさんからのひと言
0551	松田 松田家総勢みんなが集まってお盆やる、

	<p>みたいないっぱいあるんですけど、 そういう時もやっぱり何か親戚のおじさんとかも 兄貴は何かかわいそうだって思った人もいたみたいで、 「お前達双子は兄貴の分まで一生懸命生きて、兄貴の分も背負って」 みたいな言う人もいて、 でもそれも何か、普通に兄貴も全然楽しそうに生きているように、 僕には見えるから、そういう障害者という枠に入れられてしまった時点で、 欠落の対象みたいな立ち位置になってしまうってすごい気持ち悪いなどは、 昔から思っていましたね。</p>
0625	<p>JOY 子供達が、何かそういう風に面白おかしくいじってしまう それは何となく理解できるんですけど、 大人がそういう言葉を何か言うっていうのはちょっと辛いですよ。</p>
0634	<p>松田 そうですね。 そういうのは当時色々と考えるところはあったかなと思います。</p>
0640	<p>JOY 大人になってから振り返ると尚更、そう思うかもしれないですよ。</p>
0645	<p>ナレーション そんな松田が立ち上げた会社、ヘラルボニーでは</p>
0650	<p>障害がある作家によるアート作品の著作権管理を行っているが</p>
0656	<p>そこに至るにはある出会いがあったという</p>
0702	<p>起業のきっかけ</p>
0705	<p>松田 そうですね。大学を卒業して、 そのまま東京の企画会社に就職したんですけど、 3年目になった25歳の時ですかね、の夏休みに、岩手に帰省した時に、 岩手県にるんびにい美術館という 障害のある作家さんが描く福祉施設が美術館をやっている場所があって、 そこに行ってみない？って母親に誘われて行ったら すごいなんか作品に圧倒されて、</p>

	<p>ああ、こんな世界がそもそも存在してるんだということに大きな影響を受けて、 双子の文登にプルルルって、その場で電話して、 「めっちゃ格好良いから何かやろう！」みたいに言って。</p>
0748	<p>JOY もうその時ですか？</p>
0749	<p>松田 そんな感じでしたね。 でもその時の、地元の大学の友達とかにいっぱい電話して、 「みんなでなんか副業でやろう」みたいな。 最初は全然その副業だったので、 双子で貯金を出し合ってネクタイを作るってところから始めたんですけど。</p>
0806	<p>高橋 そのネクタイも？</p>
0807	<p>松田 そうなんですよ。で、26の時にネクタイ作って そこから27で会社にしてっていう。 これも色地もアートになっていて。</p>
0814	<p>高橋 えー！</p>
0815	<p>JOY ジャケットの裏地もですか？</p>
0816	<p>松田 そうなんですよ。</p>
0816	<p>高橋 ジャケットも出されてるんですか？じゃあ</p>
0818	<p>松田 結構色々</p>
0819	<p>JOY めっちゃかっこいいよね</p>

0820	<p>松田 ありがとうございます。 バッグとかも色々。</p>
0822	<p>高橋 どんどん出てくる</p>
0823	<p>JOY ほぼトータルコーディネートじゃないですか。</p>
0824	<p>高橋 色んなものを、そのアートを実際に日常に使うものに 反映させているんですか？</p>
0830	<p>松田 そうなんですよ。家具も売ってますし。 最近だと本当ホテルのプロデュースをやったり、色々なことをやっています。</p>
0836	<p>高橋 ホテルまで</p>
0836	<p>JOY え！じゃあもう、 最初アパレルをやってるのかなって思ったんですよ、ネクタイって聞いて。 そうじゃなくて幅広いんですね。事業内容が。</p>
0844	<p>松田 そうなんです。 ライセンス事業って言ってアートのデータを 色んな企業さんにお渡しして、そのライセンスフィーをもらって、 そのライセンスフィーが作家さんに還元されていくと。 そういうのをデーターを軸に色々展開している会社。</p>
0859	<p>JOY 最初このお話を聞いた時に、 絵を見て影響を受けて始めたビジネスじゃないですか。 だからこういう絵を買ってもらおうとか、 なんかオファー来たらじゃあ描いてもらおうとか、 そういうビジネス展開なのかなと思ったんですけど、 そうじゃなくてライセンス事業にしたっていうのは理由をあるわけですか？</p>

0917	<p>松田</p> <p>何かやっぱり、重度の知的に障害がある人たちが契約している方の結構大半だったりするんですけどもやっぱり納期に縛られる創作活動っていうのは、結構難易度が高いんじゃないかなって思ってた。従来の画廊ビジネスだったら、画廊に契約したら1年に一回個展をやります、20作品用意してください、それまで20作品できて、個展で売ってみたいなことじゃなくて、データという形で管理させていただければ、納期に縛られない形で、ちゃんとその作家さん親御さん福祉施設の承認を得たら、ちゃんと潮流にのっていきっていく、そういうことができれば、すごくうちの兄貴が仮に絵を描けたとしてもビジネスにのるだろうと思ったっていうのがきっかけです。</p>
1008	<p>高橋</p> <p>でもこういった形だと、その作家さんの収入といった点でも、やっぱり大きな可能性があるんじゃないでしょうか。</p>
1015	<p>松田</p> <p>でも、本当に全員が全員ってわけじゃないですけど、やっぱり知的に障害のある人で、やっぱり重度の方とかだと私の兄貴は、例えば空き缶をつぶすっていう毎日を通して。全然お金を稼いでいるのが目的ではないのであれですけど、ただひと月3,000円とかなんですね。貰っているものとして。そういったところもすごい多い中で契約している作家さんの中だと、中には数100万円単位で稼ぐ人も出てきてますので。でも、それってお金が全てじゃなくて、お金が付くことによって、息子の作品が落書きだって思ってた家が、突然、家中に息子の作品をアートって言われたりするから飾るようになったりとか、なんかそうすることによって、やっぱりその息子とか娘をすごく誇りに思える。そこがすごい、やっぱりどちらかというと重要で尊敬を作っていくってことをやれたらいいなと思ってます。</p>
1108	<p>高橋</p> <p>尊敬を作っていく…</p>

1111	<p>松田 そうですね、 うちの兄貴を見てても、やっぱり尊敬とすごく遠い世界になっているというか</p>
1125	<p>JOY リスペクトされづらいということですか？</p>
1126	<p>松田 リスペクトされづらい領域 特に重度の知的障害の人の領域ってそう思っていて でも本当に「すごい！こんな作品書けないわ！」みたいな世界が やっぱ本当に存在しているので かわいそう、助けてあげなきゃっていう枠組みに入れてしまうんじゃないかと こんなに素敵な作品を作る才能を持っているんだと すごい！かっこいい！って思える社会になってほしいなと思いますね。 徐々にですけど、それが生まれてるのはすごい嬉しいですね。</p>
1201	<p>JOY 人の心が変わっていくということがやっぱり重要なんですね。</p>
1204	<p>松田 そうですね</p>
1208	<p>ナレーション 会社名「ヘラルボニー」に込められた想い</p>
1213	<p>松田 ヘラルボニーって会社名はですね、 小学校時代うちの兄貴が色んな自由帳に書いてた 謎の言葉をそのまま会社名にしてまして、 20歳の頃に自分発見したんですけど、 何かやたらと色んな自由帳にヘラルボニーヘラルボニーって 出てるなっていうのを見てて。</p>
1231	<p>JOY どこかの国の言葉じゃないんですか？</p>

1 2 3 3	松田 そうなんです。でも検索結果で引っかけられないので。
1 2 3 6	JOY 造語なんだ。 それお兄さんに、これ意味あるの?とか聞いても?
1 2 4 0	松田 「分かんない!」って言うんです。
1 2 4 2	JOY 自分の響きとか
1 2 4 3	松田 何かしらあるんだとは。当時やっぱり何十冊も書いてるので、 何かしらやっぱり意味はあるのは間違いないと思うんですけど。
1 2 5 0	JOY 松田さん、何でその中からヘラルボニー選んだんですか?
1 2 5 3	松田 やっぱり兄にとってはすごく意味があるんだけど、 世の中には可視化できないものって、何かそういうものって やっぱり兄に関わらず、重度の知的障害がある人たちには すごくいっぱいあると思ってて、 本人にとってはめっちゃ面白いけど伝わってないもの。 何かそういったものを、可視化させて伝えるような 会社にできたらいいなっていうのを思って、 ヘラルボニーを選んだというのがありますね。
1 3 2 1	JOY でも高橋さん、ヘラルボニーってめっちゃインパクトない? 一回聞いたら忘れないような。
1 3 2 5	高橋 凄い、どういう意味なんだろってずっと気になってたので。
1 3 2 7	JOY 何か心地いいんだよね、でもね。

1330	松田 ありがとうございます。
1332	ナレーション そして、会社を起こして3年を迎えた去年
1337	松田達に思いがけない贈り物が…
1342	松田 去年、自分今31なんですけど、30歳になったんですけど、 そのタイミングで母親から突然LINEでぽんとWord資料が送られてきて。
1353	高橋 Word?
1354	松田 Word資料で。 そしたら、色々と当時の葛藤の文章みたいなのが送られてきてて。
1400	JOY それ、いきなりですか?
1401	松田 いきなり送られてきて。
1402	JOY 前触れもなく?
1403	松田 書きたくなっただけでしょうね。 僕たち双子が30歳になって、 会社も3年を迎えたくらいのタイミングだったんで 何か母親にとっても色々整理されるところがあったみたいで、 その時に文章みたいなのを送られてきたことがありました。
1421	ナレーション 母からの実際のメッセージがこちら
1426	どんなことを思って子どもたちを育ててきたんだろう。

1432	小さい頃は、勉強よりも友達といっぱい遊ばせたなあ。
1439	いろんな体験をさせたいと思っていた…
1444	ううん、でも1番強い想いはこれだったのかもしれない。
1452	「近所の人にわからないように外には出さないんだよ。」
1457	実家に子どもたちを連れて帰ると、よく母から言われた。
1504	その度に私は「どうして?」と思った。
1510	私にとって、翔太も文登も崇弥も同じようにかわいい大事な子どもなのに、
1518	どうして翔太だけ障害があるからって隠さなきゃいけないの?
1525	翔太は隠しておかなきゃいけないような恥ずかしい 子どもじゃない!
1532	それはいつしか文登と崇弥への願いへとかわっていったのだろう。
1538	お兄ちゃんを恥ずかしいと思わないで生きてほしい。
1544	兄に障害があるためにこれからつらい思いをすることは いっぱいあるだろう。
1552	でも、お兄ちゃんを恥ずかしいから隠しておこうとは思わないでほしい。
1559	そう思いながら、それはときに弱気になりそうな自分自身に 言い聞かせていたのかもしれない。
1610	ふたりが中学3年の体育祭に
1613	家族みんなでお弁当を持って応援に行ったとき、
1618	2人はお兄ちゃんが来ているのでいっしょに食べようとはしなかった。
1625	怒った私は、お弁当を置いて翔太を連れて家に帰り、

1630	見たかった中学校最後の体育祭なのに
1635	もう見に行くことはしなかった。
1638	でも、ごめん、あのとき私はふたりに怒っていたわけじゃなかったんだ。
1646	ただ、心の中は誰にもぶつけられないやりきれない気持ちでいっぱいだった。
1654	私の想いが強すぎて、思春期の子どもたちにはつらい思いをさせてしまった。
1701	ふたりが障害がある人に関わる仕事に就くことは、
1706	どうしようもない現実にも思い悩むことも多いのではないかと思い
1713	正直望んではいなかった。
1716	だから、障害がある人が描いたアートを
1720	ネクタイにして販売してみたいと言われたときは驚いたけど、
1726	うれしいと思う気持ちも確かにあった。
1731	自分の兄は自閉症だと全国、いや全世界へ発信しているふたりを
1739	亡くなった母が見たら、何て言うんだろう？
1743	ずいぶん世の中も変わったもんだねと言うのかな。
1748	これから、もっともっと変わるからね、お母さん。
1754	私はずっとふたりに同志になってほしかったのかもしれないなあ。
1801	ありがとう！最強の同志。 30歳おめでとう！
1812	高橋 最強の同志。
1814	JOY

	<p>ね。 本当お母さんの今まで思ってたこと、 30年間思ってきたことっていうのを全て吐き出した感じ。 これを多分言うことによって、ある意味解放されたというか 楽になったお母さんもいると思いますし、 自分のお母さんに対して、いい意味で変わっていくよっていう 前向きなメッセージも込められてて、 すごく素敵な手紙だなんていう風に思いましたけども、 松田さんどうでしょう、この手紙見た時。</p>
1840	<p>松田 ああでも、多分自分の母親も、自分の、自分の直の母親から 言われたことに対することは僕も初めて聞いたので当時、 それに対する咀嚼できない感情みたいなようなものを どこかで吐き出したかったのかなと。 で、そのタイミングが30歳っていうところだったのかなっていう 母親の救済のような手紙だなとも思いましたけど。</p>
1906	<p>JOY そうですね でも嬉しいんでしょうね。 今2人が一緒に事業立ち上げてやってるっていうことがね</p>
1914	<p>松田 嬉しいでしょうね、確かにそこは 親孝行だなと思ってます私も</p>
1919	<p>高橋 今回松田さんのお話を聞いていて 障害のある方とどう接したらいいんだろうって 幼少期の自分ってどうやって向き合っていたかなっていうのを改めて考えると ちゃんと向き合えていなかったんじゃないのかな っていうことも</p>
1934	<p>JOY 振り返ってみたらね、そのこともあったかもね。</p>
1936	<p>高橋 思うんですけど、でもそうやって向き合ってきた松田さんが 大事にしている言葉ってありますか？</p>

1944	<p>松田</p> <p>言葉。そうですね。</p> <p>大事にしている言葉は『異彩を放て』っていう言葉が。</p>
1951	<p>ナレーション</p> <p>松田崇弥のマイトゥルーカラースワード</p>
1956	<p>松田</p> <p>異彩を放て</p>
1959	<p>高橋</p> <p>どういう意味ですか？</p>
2000	<p>松田</p> <p>ヘラルボニーの、実は会社のミッションにも『異彩を放て』ってミッションを掲げさせていただいているんですけども、やっぱり知的障害って言葉の中にも、すごい無数の個性みたいなものが存在してて、それがやっぱり可能性だっていう風に言い切っていきたいなっていうのをすごい思ってた、障害っていうマイナスから入るんじゃなくて、異彩という風に定義する。“異なる彩り”という風に定義することによって、何かイメージを変えられるっていうのがあるんじゃないかなと思って『異彩を放て』と掲げてます。</p>
2037	<p>高橋</p> <p>それこそこれまでは、お母さんも隠すってことから、逆の放つ方向にもっともっと色んな方がこの魅力を知ってほしいですし、今回、このアート作品実際に付けていらっしゃるのも見て、こんなに格好いいアートがあることも私も初めて知りましたし、もっともっと魅力を知ってもらいやすい世の中になってもらったら。</p>
2100	<p>JOY</p> <p>色んな人が、多分この放たれた異彩をもっと目にしていくというか、そういう風になっていくんじゃないかな。</p>
2109	<p>高橋</p> <p>今日は松田さんとお話しましたが、JOYさんいかがでしたか？</p>

2113	<p>JOY</p> <p>いや面白かったですね。</p> <p>障害あることってもうこの時代、決してマイナスではなくて、それが強烈な個性。</p> <p>逆に僕らが持ってないような個性、武器だと思うので、それを世の中にもっともっとこれから出てくるんだって思うと楽しみがすごく強いし、松田さんの会社を全力でね僕も応援していきたいし、今後見守っていききたいなという風に思いましたね。ひかるちゃんどうでした？</p>
2137	<p>高橋</p> <p>私はこういった事業をされていることとか、こういった活動があることを知らなかったのも、まずはその作品を是非実際に見てみたいなって思いましたし、もっともっと知りたいなって思いました。</p>
2151	<p>松田</p> <p>めちゃくちゃありがたいです。ぜひ！</p>
2154	<p>高橋</p> <p>お二人ともありがとうございました。</p>
2155	<p>松田</p> <p>本当にありがとうございました。</p>
2157	<p>高橋</p> <p>それでは、また、次回お会いしましょう。</p>